

まちだ未来の会 第19回 学習会

鶴川図書館が危ない！

— 鶴川図書館の存続を求める緊急集会 —



鶴川図書館が集約の対象になった背景

- ・「町田市公共施設再編計画」(2018年6月策定)の中で、図書館と文学館が最初に再編の検討対象となった。
- ・そもそも「町田市公共施設再編計画」とその基になる「町田市5カ年計画19-21」とは？

町田市5カ年計画と図書館再編問題の関係

「町田市5カ年計画17-21」の策定趣旨
～未来への投資と公共サービス改革の実行～

2017年度第1回
町田市行政経営監視委員会
資料1

環境変化1

生産年齢人口の減少・超高齢化

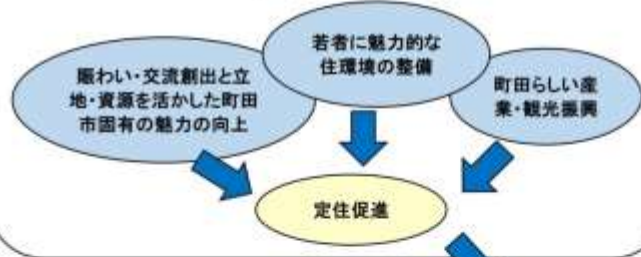
環境変化2

構造的収支不足の拡大

88項目

重点事業プラン

未来への投資



人口が減少する時代の新たな価値を創出

危機を改革の契機に！

48項目

行政経営改革プラン

公共サービス改革



税源涵養*

持続可能なサービス
基盤の構築

※税源涵養
将来の税収増につながる環境づくりを行うこと。

15年後も30年後も選ばれ続けるまちとなる

この「行革プラン」の中で、「公共施設再編の推進」が謳われ、ほぼすべての生涯学習や歴史・文化関連施設のあり方の見直し盛り込まれる中で、図書館については「8箇所ある図書館の再編を推進する」と明記された。

再編計画とまちだ未来の会

2017年初めに、再編計画案の中に、図書館の再編と文学館の存廃検討が挙げられていることを知る



4月に「まちだ未来の会」を立ち上げ、町田市の財政、「再編計画」案の内容、施設ごとの現状などについて、毎月学習会を開催



市議会に対して、請願を提出

- ①市民生活に根ざした再編計画の策定を求める請願(2017年9月議会に提出)
- ②鶴川図書館の存続を求める請願(2017年9月議会に提出)
- ③市民文学館の存続を求める請願(2017年12月議会に提出)
- ④さるびあ図書館の存続を求める請願(2018年3月議会に提出)



いずれも全会一致で採択。

2017年9月13日に合計5621筆の署名を提出、当日の文教委員会で賛成多数で、29日の本会議では全会一致で採択。

2018年5月、鶴川市民センターと和光大学ホプリホール鶴川の2会場で、図書館主催のワークショップ「鶴川地域の図書館のこれから」開催。参加者の多くが鶴川図書館の存続を前提に熱心な議論を交わす。

6月、請願採択やワークショップでの市民の声を全く無視する形で、鶴川図書館を駅前図書館に集約する内容の「町田市公共施設再編計画」を策定。

6月30日、まちだ未来の会では、2017年4月以来十数回の学習会を重ね、「私たちはこう考える！町田市の『公共施設再編計画』—市民版—」を作成、市に提出。

10月、教育委員会は、生涯学習審議会に「町田市立図書館のあり方見直しについて」を諮問。

2019年1月、生涯学習審議会で図書館のあり方見直しについての答申を提出。

2月、教育委員会で図書館再編問題の意志決定、3月議会に行政報告の予定。

「町田市立図書館のあり方見直しについて」の中で
鶴川図書館の現状として書かれているのは

- ① 建築年は1967年
- ② 延べ床面積300m²前後
蔵書冊数は約5万冊と少ない
地域館の中で最も規模が小さい
- ③ 年間貸出数は約20万冊
- ④ 利用の減少傾向も顕著である
- ⑤ 鶴川図書館と鶴川駅前図書館の利用圏域
の重なりが大きく、能ヶ谷と大蔵町で両図書館
を利用する割合が高い

このような理由で鶴川図書館を閉館するのが妥当か？
色々なデータから鶴川図書館を分析してみましょう

2017年度生涯学習に関する市民意識調査(5. 図書館についての調査)から

問15 あなたは、この1年間、町田市立図書館のサービスをどこで利用しましたか。
(〇はいくつでも)

図 町田市立図書館のサービスを利用した施設

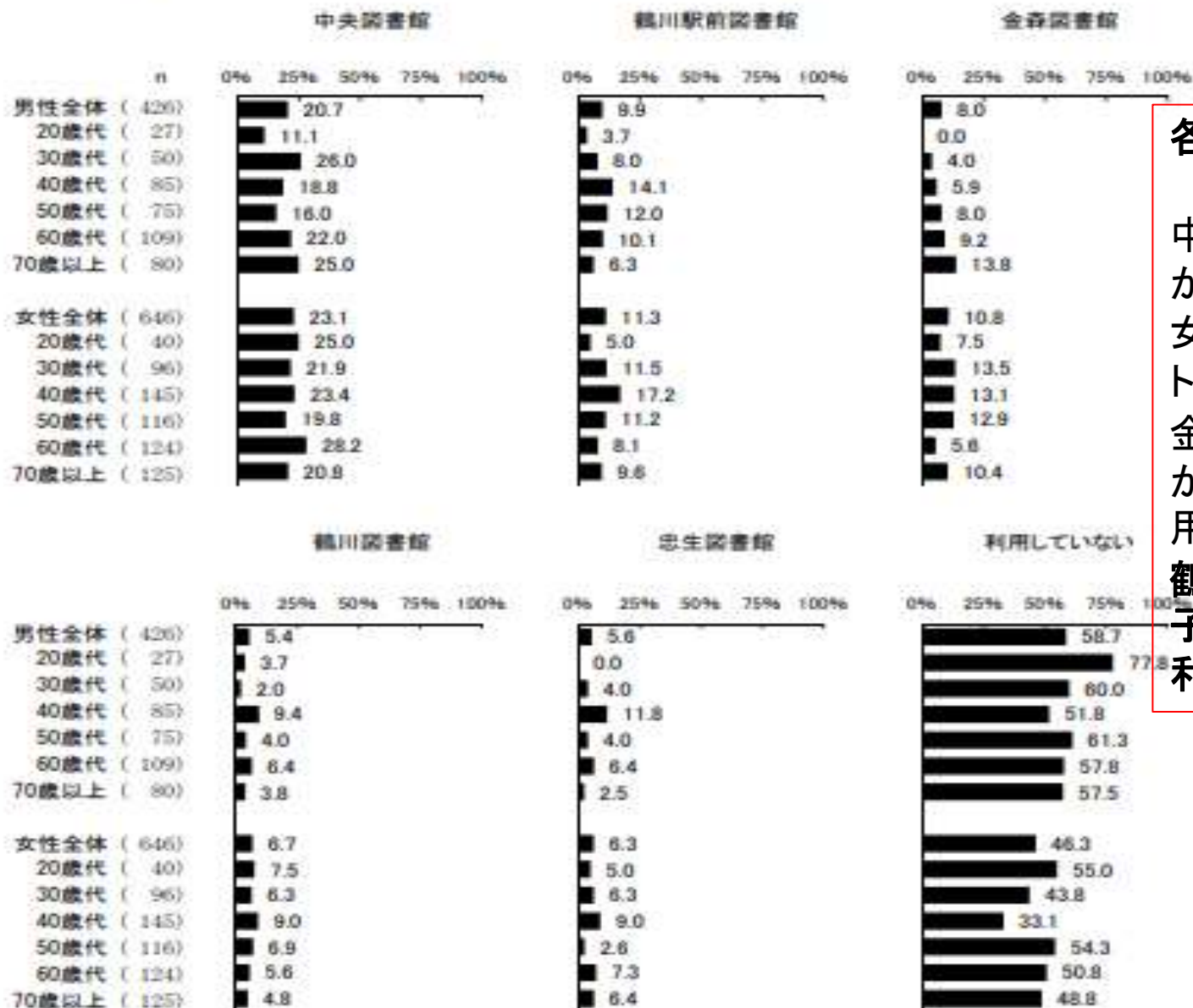
n=1,106

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



8館の中で一番小さい
鶴川図書館でも、
利用していると回答
した人の数は
堂々の4位！

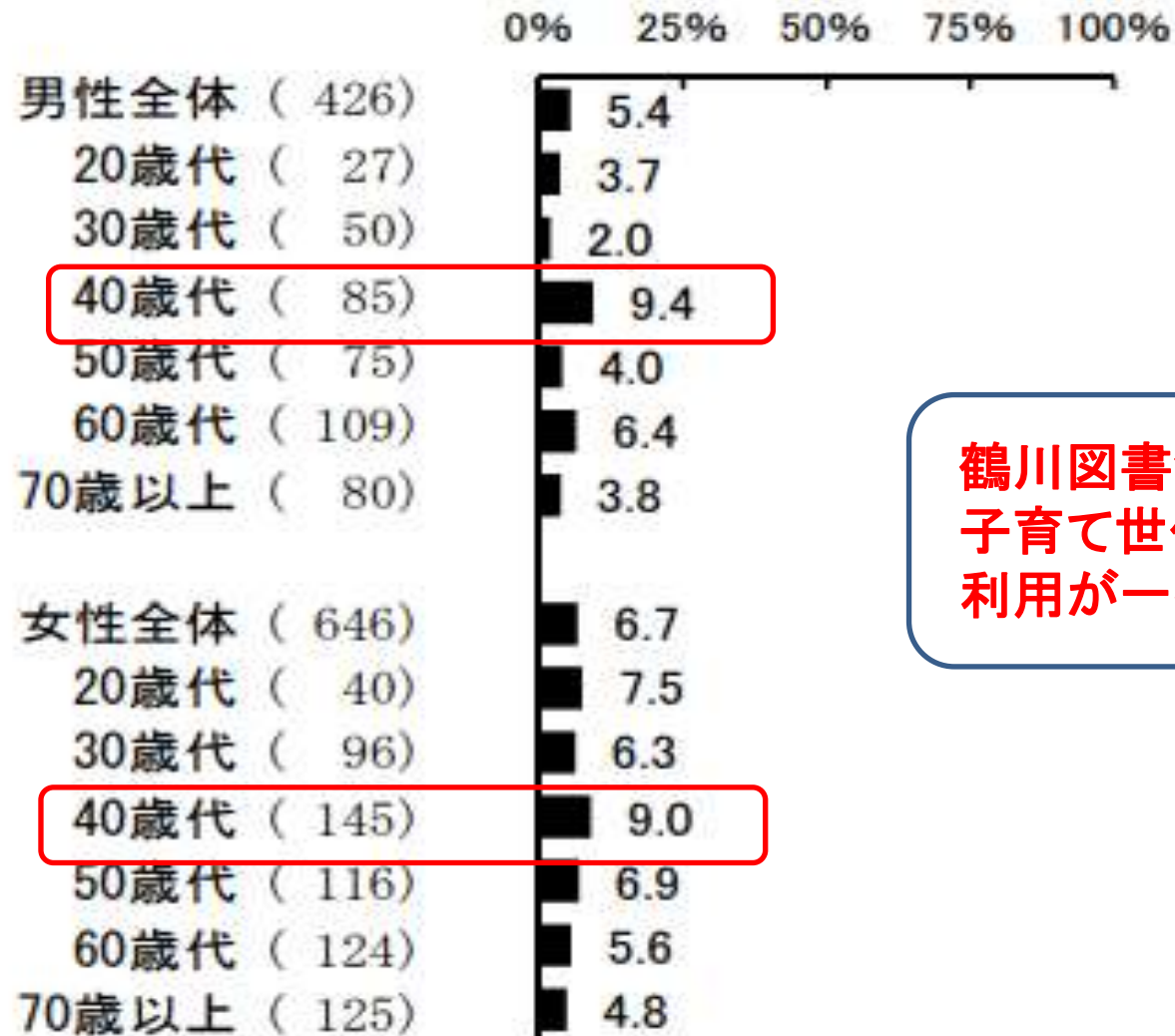
図 町田市立図書館のサービスを利用した施設(性・年代別、上位6項目)



各館の利用者の年代傾向

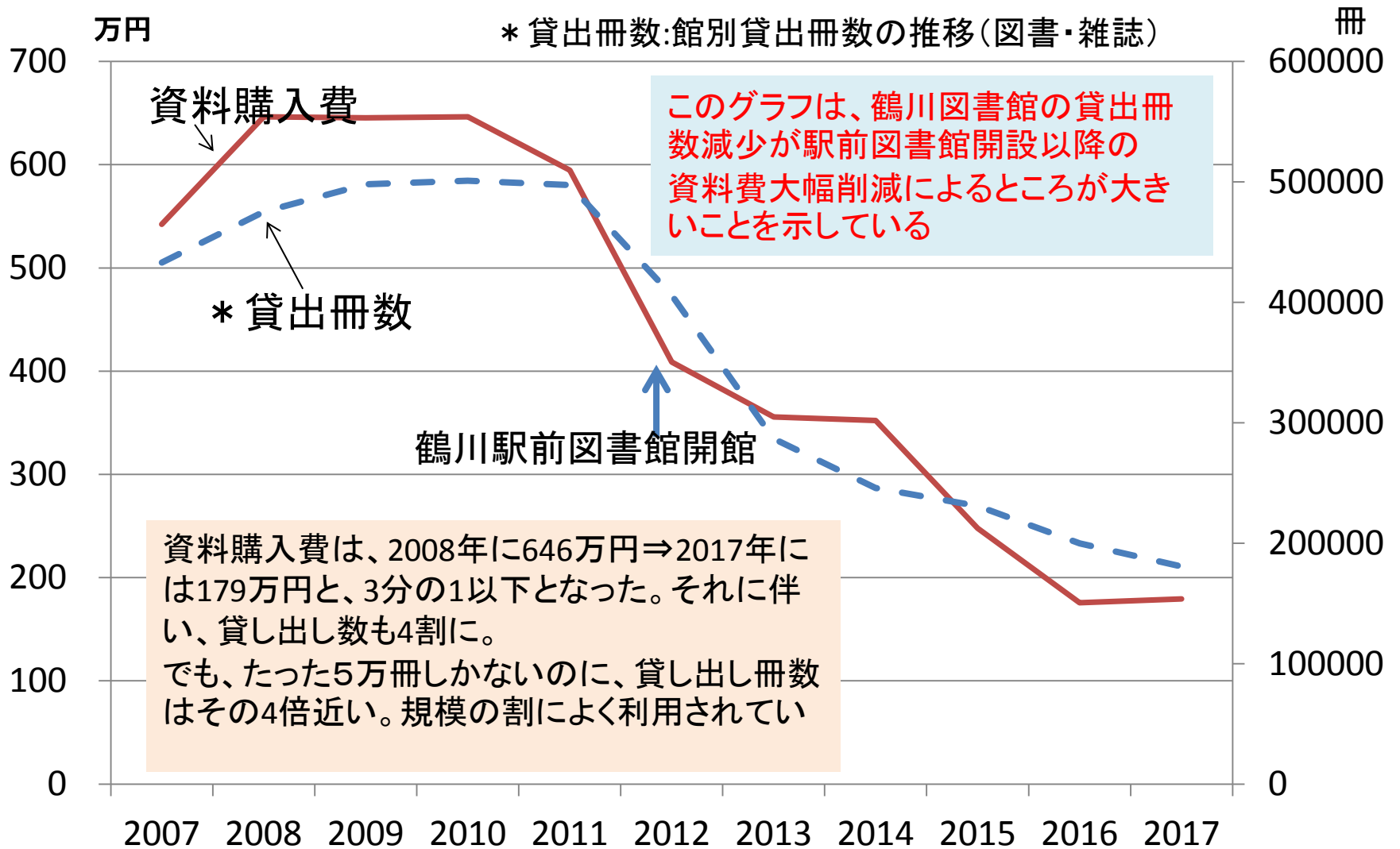
中央館では男性は30代がトップで次いで70代。女性では60代の利用がトップ、次いで20代。金森では、男性は年齢が高くなるにつれて利用者が増える。鶴川、鶴駅、忠生では、子育て世代の40代の利用が男女ともに多い。

図 町田市立図書館のサービスを利用した施設(性・年代別)から鶴川図書館について

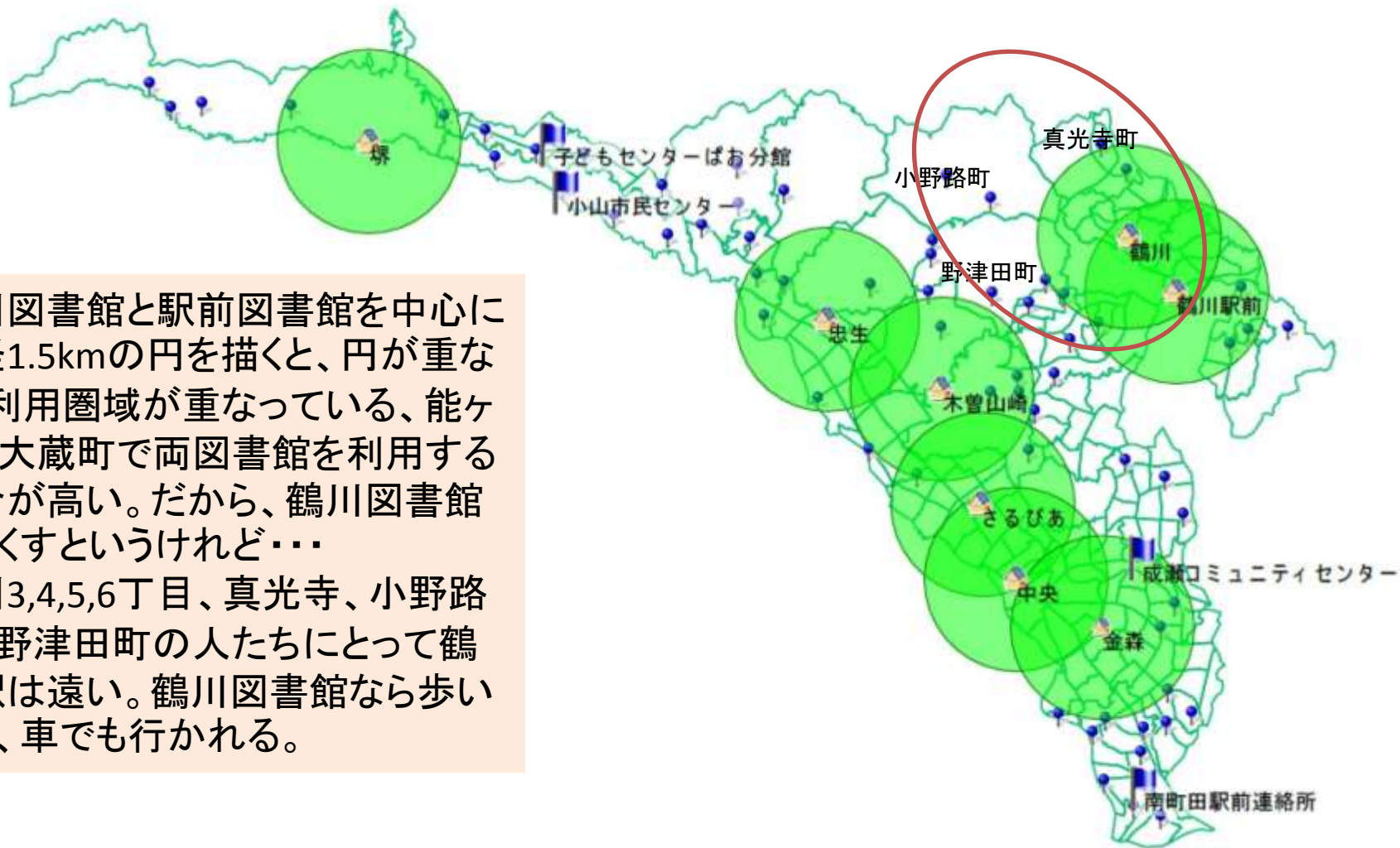


鶴川図書館は
子育て世代の
利用が一番多い

鶴川図書館の資料購入費と貸出冊数の推移 (年報「町田の図書館」より)



町田市図書館MAP



鶴川図書館と駅前図書館を中心に半径1.5kmの円を描くと、円が重なり、利用圏域が重なっている、能ヶ谷と大蔵町で両図書館を利用する割合が高い。だから、鶴川図書館をなくすというけれど...

鶴川3,4,5,6丁目、真光寺、小野路町、野津田町の人たちにとって鶴川駅は遠い。鶴川図書館なら歩いたり、車でも行かれる。

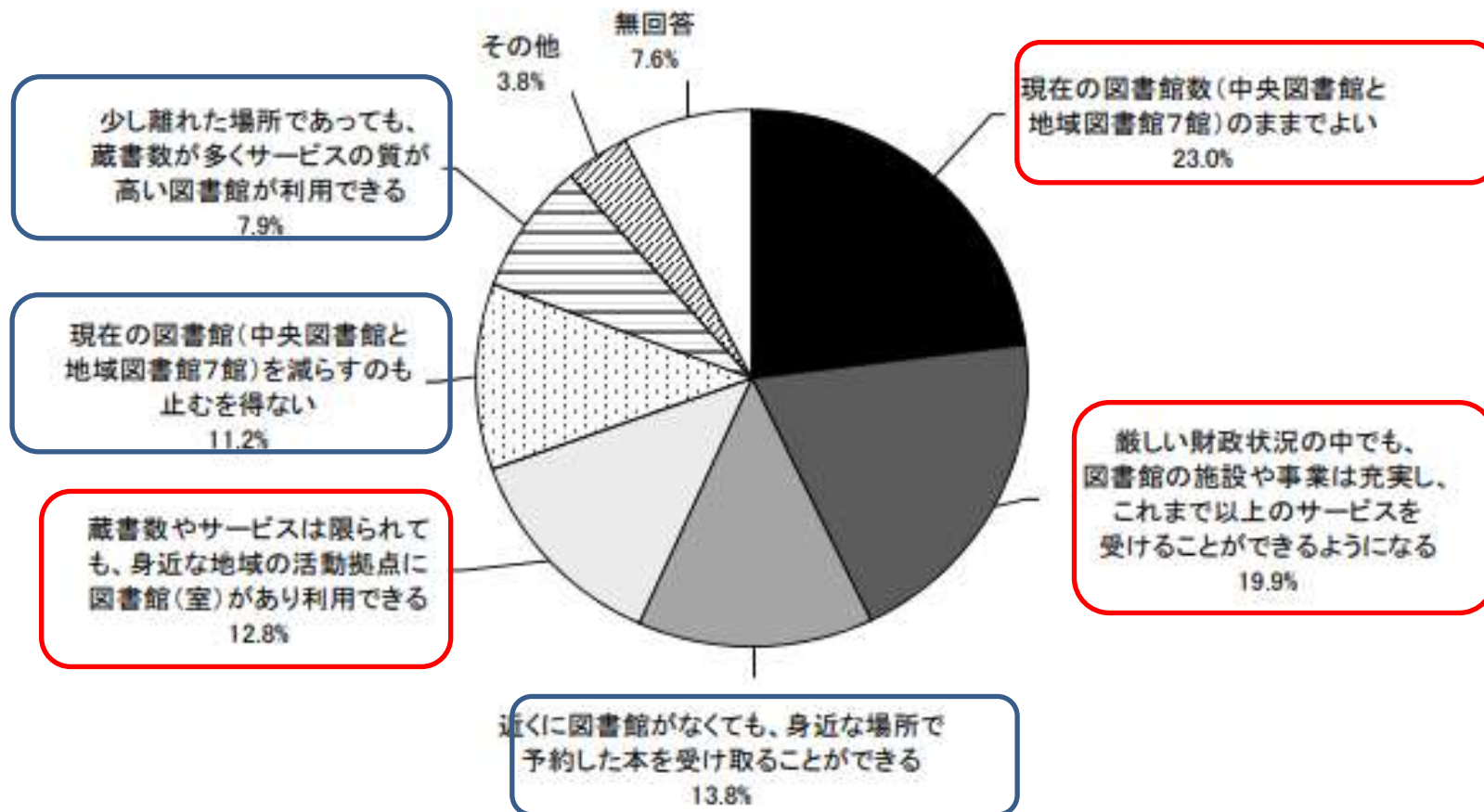
問17 今後、町田市が図書館の見直しを進める上で、あなたが最も重要と考えることは何ですか。

2017市民意識調査より

(〇は1つ)

図 図書館の見直しで最も重要と考えること

n=1,106



再編やむなし の合計 = 32.9%

現状或いは充実を望む の合計 = 55.7%

「町田市立図書館のあり方見直しについて」の中で 鶴川図書館を閉館する理由付けは妥当ではなかった

- ① 建築年は1960年
- ② 延べ床面積300m²前後
地域館の中では最も規模が小さい
蔵書冊数は約5万冊と少ない
- ③ 年間貸出数は約20万冊
- ④ 利用の減少傾向も顕著である
- ⑤ 鶴川図書館と鶴川駅前図書館の
利用圏域の重なりが大きく、能ヶ谷
と大蔵町で両図書館を利用する割
合が高い

URによる建替えの際に
図書館を入れれば解消

蔵書冊数の4倍の貸出が
あり、子育て世代が多く
利用しており、子どもの
利用も多いことが推察で
きる。建替えられれば利
用拡大も見込まれる

鶴川3,4,5,6丁目、真光寺、
小野路町、野津田町の
人たちにとって鶴川駅は
遠い。鶴川地域では重な
るエリアよりも重ならない
エリアの方が広い。

図書館は、本来重点事業の対象では？

- 図書館は少子高齢化の時代にこそ大事。
 - ⇒子ども達の考える力、想像力を育てる
 - ⇒シニア世代の健康長寿につながる
 - ⇒地域の文化・交流の拠点となる
- ・・・どれも「生涯学習推進計画」にもマッチする

市民意識調査に表われている市民の希望とも重なる

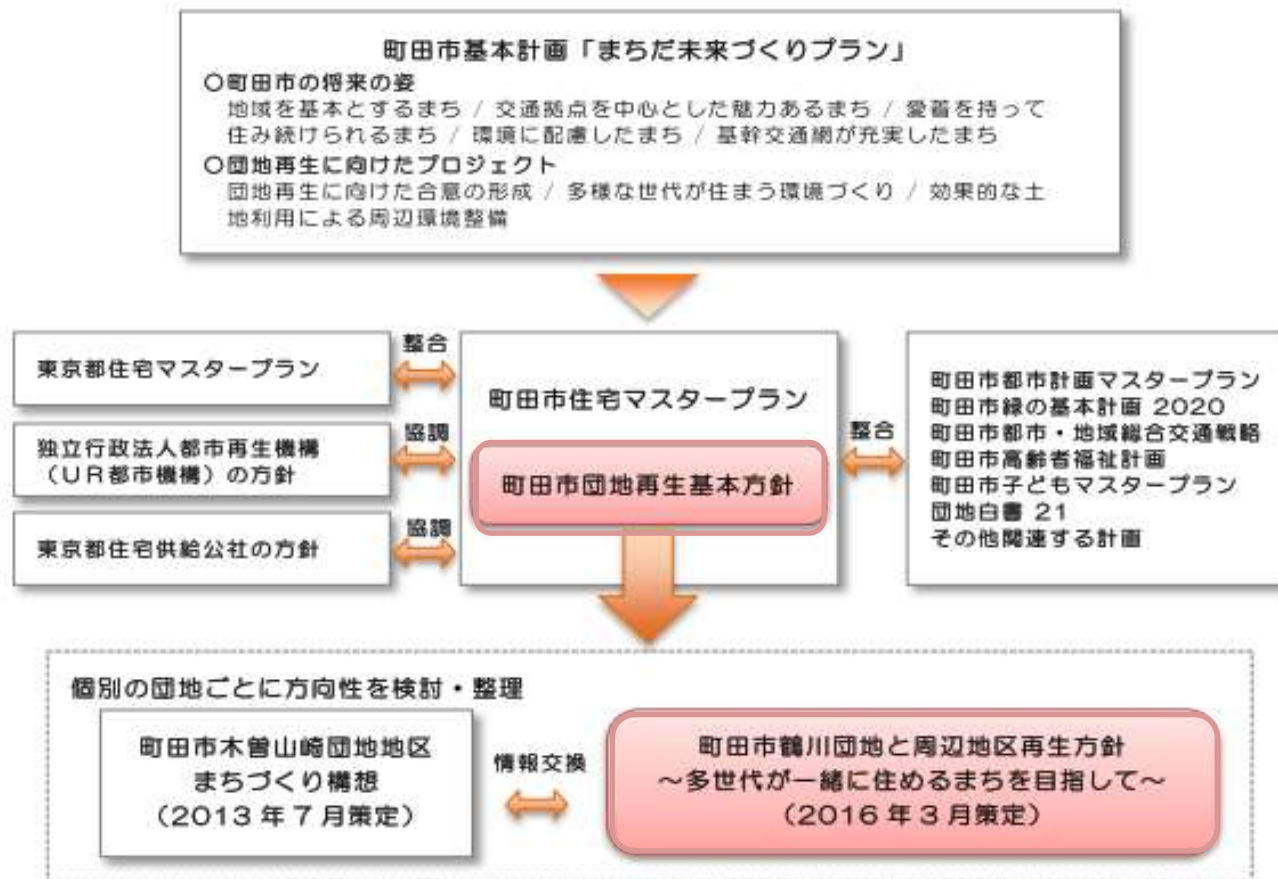
鶴川団地と商店街にとっての鶴川図書館
はどのようなものなのでしょうか？

鶴川団地と周辺地区再生方針
～多世代が一緒に住めるまちを目指して～
(2016年3月に市が作成したもの)
(抜粋)

2. 再生方針の位置付け

本再生方針は、「町田市団地再生基本方針(2013年3月策定)」に基づき、鶴川団地と周辺地区における活性化に向けた方向性を整理したものです。

本再生方針と他の計画の関連は以下の通りです。



3. 再生方針の検討対象区域

再生方針は、鶴川団地と周辺地区を対象として定めるものであり、具体的には下図の赤線で示すUR賃貸住宅鶴川団地（五丁目）、鶴川二丁目団地、鶴川六丁目団地および戸建て住宅中心の鶴川三丁目・五丁目地区、センター名店街、セントラル商店街を対象として検討を行いました。



出典：町田市団地再生基本方針（2013年3月策定）

資料編 団地カルテ4 鶴川団地より抜粋

6. まちづくりの目標・方向性とアクション

(1) まちづくりの目標・方向性

鶴川団地と周辺地区において、さまざまな世代の人たちが、コミュニティを育み、いきいきと過ごすことができるまちを実現させるために、『多世代が一緒に住めるまち』をまちづくりの目標として掲げることとしました。

また、これまでの地域検討会での取組を検証し、鶴川団地と周辺地区の現状と課題を踏まえ、目標達成に向けて今後取り組むべきアクションとして3つの柱にまとめました。



<多世代が一緒に住めるまち>を実現するため、現在、鶴川団地、商店会はURと話し合いを続けています

鶴川図書館がこの三本の柱に欠かせない存在であると考え、存続を求めています